



3年学年だより

発行日:令和7年 10月31日(金)

発行者:横浜市立南高等学校附属中学校

学校長:二上 直子 NO. 6



南極教室



MINAMI

校長代理 中澤 務

10月16日(木)の6・7校時、本校メインアリーナで国立極地研究所主催の「南極教室」が開催されました。衛星回線を通じて約14,000km離れた南極・昭和基地とつなぐという、大変貴重な機会をいただきました。当日は、現地で活動中の米村さん(附属中学校保護者の方)をはじめ、第66次南極地域観測隊の皆さんとオンラインでお話することができました。

本来は基地の外から中継していただく予定でしたが、当日はブリザードのため、基地内部からの映像が中心となりました。それでも、短時間だけ映し出された風速20mを超える外の様子からは、南極の過酷な自然環境を実感することができ、附属中1、2年生の生徒からも驚きの声が上がっていました。

米村さんからは、観測隊の活動について詳しくご紹介いただきました。第66次南極地域観測隊は、隊員31名、平均年齢40歳(最年少26歳、最高齢63歳)で構成されています。越冬隊長1名のもと、観測部門12名は気象・大気・雪氷・オーロラ・海洋生物など多岐にわたる観測を行い、設営部門18名は機械・建築・通信・医療・調理・環境保全など、基地と人々の生活を支えています。夏隊は約2か月間、越冬隊はおおよそ1年2か月という長期間にわたり南極で活動しているそうです。

また、米村さんからは南極での暮らしにまつわる興味深いお話も伺いました。ブリザードが吹き荒れるときもあれば、静寂の中でクジラの潮吹く音が聞こえることもあることや、危険を伴うクラック(氷の割れ目)のこと、それぞれの基地と交わすグリーティングカードのことなど、南極の生活を実感できるエピソードに、生徒の皆さんは興味をもって耳を傾けていました。生徒から寄せられた多くの質問にも、隊員の皆さんが丁寧に答えてくださり、南極での研究や生活のリアルな一端を知ることができました。

私が印象的だったのは、米村さんが紹介してくださった初代越冬隊長・西堀栄三郎さんの言葉、「とにかくやってみなはれ」です。未知の環境に挑む姿勢は、南極地域観測隊の方だけでなく、どんな学びにも通じるものだと思います。今回の南極教室を通じて、生徒の皆さんには、まだ経験していないことにも勇気をもって挑戦する気持ちを大切にしてほしいと感じました。

沖縄研修旅行 ～ReSpect ReQuest～

10月3日(金)から6日(月)にかけて、沖縄へ3泊4日の研修旅行に行ってきました。社会科の時間を利用して「沖縄新聞」を作成したり、持ち物について自分たちで、保護者の方たち・教職員たちと話し合ったりする中で、一人ひとりが想いをもって迎えた行事です。研修旅行実行委員はさまざまな場面で多くの時間をかけ、活動の中心となり、スローガン「ReSpect ReQuest」の達成に向けて一生懸命に取り組んでいました。そうした活動の種たちが実を結ぶよう応援してくれているかのように、沖縄には10月とは思えない強さの太陽の日差しが🌻 そんな光をたっぷり浴び、12期生が大きく育つ、素敵で充実した時間でした。

1日目

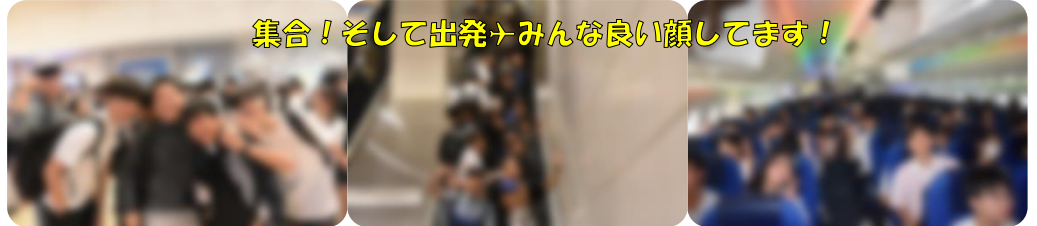
羽田空港→那覇空港

～昼食@優美堂

～平和学習

～夕食@ホテル(三線ライブ♪)

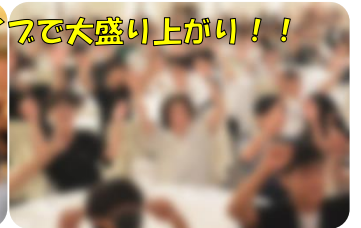
集合！そして出発→みんな良い顔してます！



平和の尊さを学び…



夜は三線ライブで大盛り上がり！！



インストラクターと良い時間を過ごした English Quest



2日目

English Quest @首里城

～国際通り班別行動

～Welcome Ceremony



晴天＊の中、最初の学年集合写真！



国際通り班別行動→ホストファミリーと出会い

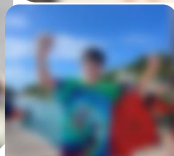
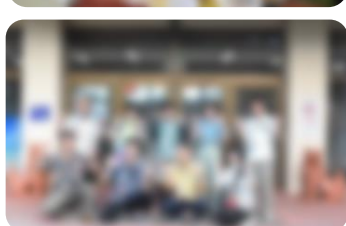
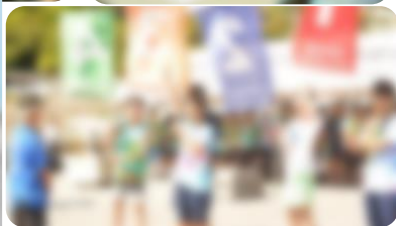


3 日目

多文化共生・国際文化学習
～昼食@御菓子御殿（恩納村）
～ハーリー競漕@古宇利島



多文化共生・国際文化学習



いつの間にか最大のイベントとなっていたハーリー競漕！はじける笑顔が最高でした！



4 日目 ホストファミリー宅～Farewell Ceremony～昼食@料亭那覇～那覇空港➡羽田空港



最終日は2回のクラス写真を…。いろんな方に支えられ、出会いを大切にできました



現在、沖縄研修旅行実行委員は振り返りの真っ最中です。沖縄研修旅行の事前の取り組み方、本番中の活動について、また事後の12期生について等…。次号は、それらの振り返りのまとめを中心として、おたよりを作成する予定です。
11月15日（土）には沖縄研修旅行報告会を行います。ご期待ください！！